

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第1回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 平成12年7月6日(木) 10:00~11:30

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 有富(主査)、山路(副主査)、高橋(幹事)、尾崎、金井、三枝、手塚、内藤、中込、西岡、二瓶、広瀬、丸岡、宮下(14名)

(欠席委員) 上園、小佐古、中澤(3名)

(常時参加者) 狩野、川上、白木、白倉、高橋(秀)、高橋(雄)、徳森、松本(務)、松本(善)、三澤、吉村(11名)

(傍聴者) 高塚(1名)

(事務局) 太田、市園

4. 配付資料

F4SC1-1 標準委員会の活動状況について

F4SC1-2 委員名簿(委員会、専門部会、分科会)

F4SC1-3 分科会主査他の選任方法について

F4SC1-4 標準委員会規程

F4SC1-5 標準委員会運営内規

F4SC1-6 標準委員会専門部会運営内規(案)

F4SC1-7 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営内規の解説

F4SC1-8 標準委員会活動の基本方針(案)

F4SC1-9 原子燃料サイクル専門部会の活動方針(案)

F4SC1-10 リサイクル燃料貯蔵施設(輸送貯蔵兼用金属キャスク方式)の標準化の進め方について(案)

参考資料

F4SC1-参考1 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称

F4SC1-参考2 標準制定までの経過

F4SC1-参考3 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、17名の委員中、14名の委員の出席があり、決議に必要な委員数(9名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 経緯の説明

事務局より標準委員会設立に至るまでの経緯及びこれまでの活動状況の説明を行った。(F4SC1-1)

(3) 出席者自己紹介

出席した委員、常時参加者がそれぞれ自己紹介を行った。(F4SC1-2)

(4) 主査の互選

事務局より主査選任方法の説明の後、選任方法について出席委員全員の了解が得られた。(F4SC1-3)

出席委員全員による無記名投票が行われた。その結果、有富委員が主査に選出された。(選任基準 9票以上; 17名の分科会委員総数の過半数以上)

投票結果; 有富委員 得票 12票

山路委員 // 2票

(4) 副主査の指名

有富主査により、山路委員が副主査に指名された。

(5) 幹事の指名

主査、副主査の協議により、高橋委員が幹事に指名された。また、有富主査より三枝委員、広瀬委員及び尾崎委員が幹事補佐に指名された。

(6) 新委員の選任

- ・ 高橋幹事より平野氏（財）原子力発電技術機構）を分科会委員に選任することが提案された。有富主査より委員選任に対する決議が行われ、全員一致で可決された。

(7) 標準委員会規程、運営内規、専門部会運営内規（案）の説明

事務局より標準委員会規程、運営内規、専門部会運営内規（案）の説明を行った。以下の点について事務局にて確認を行うこととした。（F4SC1-4、F4SC1-5、F4SC1-6、F4SC1-7）

- ・ 標準委員会専門部会運営内規（案）第4条第1項（5）の委員の業種変更時の手続きを専門性と経験を有するものから選任され、業種を分類していない分科会委員に適用する必要があるか確認が必要である。
- (8) 標準委員会活動の基本方針（案）、原子燃料サイクル専門部会の活動方針（案）の説明  
事務局より標準委員会活動の基本方針（案）及び原子燃料サイクル専門部会の活動方針（案）の説明を行い、公開性について以下の通り確認を行った。（F4SC1-8、F4SC1-9）
- ・ HP上に掲載する議事録に配付資料及び参考資料を記載し、公開性を確保する。
- ・ 作成する標準の技術的判断の基となるデータ等は公開が求められ、著作権、特許等により公開できないデータに基づく規格基準は標準とならない。

(9) 分科会の進め方について

高橋幹事より説明があり、以下の議論が行われた。（F4SC1-10）

- ・ （財）原子力安全研究協会の報告書（使用済燃料中間貯蔵施設の安全設計・評価手法について 平成12年3月）を基に検討を行うこととなるため、著作権上の扱いについて幹事にて確認を行う。
- ・ 使用済燃料の長期貯蔵後の輸送については、現行法令を考慮し早い段階で方向性を議論したい。
- ・ 検討の対象を容器とするか、収納物を含めた容器とするか。また、貯蔵状態の基準とするか、貯蔵後の輸送の基準とするか。最終的な標準原案の適用範囲を示し確認を行い、これを前提として議論を始めたい。
- ・ 輸送容器分科会において検討を行っている保守基準との関連は、原則的に無いが整合性を考慮する必要がある。
- ・ 使用済燃料を収納した容器の貯蔵については、従来の基準との整合性を含めて検討したい。
- ・ 使用済燃料の長期保管後の輸送が学術的に安全性に問題ないことを議論したい。
- ・ 適用範囲および使用済燃料の長期保管後の輸送が最も重要な項目であり、十分検討する必要がある。
- ・ 次回以降、国内外の評価手法の紹介に加え適用範囲の考え方を提示する。

以上の議論を踏まえ、提案された標準化の進め方に適用範囲の考え方を加え本分科会の活動方針とすることが有富主査より提案され全員一致で承認された。なお、標準化の進め方に対するコメント等は、幹事まで送付することとなった。

(10) 今後の予定

第2回分科会を7月31日（月）13：30～17：00（日本原子力学会会議室）、第3回分科会を8月9日（水）午後（日本原子力学会会議室）及び第4回分科会を8月31日（木）午後（日本原子力学会会議室）開催することとした。

以上